REM 睡眠行動障害で発症した多系統萎縮症の１例

○ 八木和広[1] 松崎崇史[1] 鶴田和仁[2] 谷山ゆかり[2] 早稲田真[2]

[1]潤和会記念病院臨床検査部 [2]潤和会記念病院神経内科

[はじめに]

REM 睡眠行動障害（REM sleep behavior disorder；RBD）は，REM 睡眠中に起こる異常行動によって自傷あるいは他傷をきたす睡眠時随伴症のひとつである．近年，パーキンソン病（Parkinson's disease；PD）やレビー小体型認知症（dementia with Lewy bodies；DLB），多系統萎縮症（multiple system atrophy；MSA）などのαーシヌクレイン陽性の細胞封入体を有するシヌクレイノパチーと総称される神経疾患への進展例が報告されており，RBD はこれらの前駆症状として注目されている．

今回，我々は RBD を発症後，MSA と診断された症例を経験したので報告する．

[症例]

49 歳，女性．X-2 年 1 月頃より睡眠中に寝言を言って手足を動かし，時には起き上がる動作と尿失禁が出現してきた．同年 4 月頃からふらつきを感じ始め，時々話しにくいと感じることがあった．X-2 年 8 月当科受診．同年 9 月に PSG 検査を実施．

[検査所見]

PSG 検査では，REM 期に寝言や四肢のびくつき，手で叩く動作が頻回に認められた．RWA（REM without atonia）の出現率は 72%と高かった．また，周期性四肢運動（PLMs）が認められ，指数は 106.3 回/h であった．嗅覚検査や MIBG 心筋シンチグラム取り込みは正常であった．X-2 年 10 月の頭部 MRI 検査では，特に異常はなかった．X 年 1 月の MRI 検査にて小脳や橋の萎縮と，橋の十字サインを認めた．

[結論]

今回 RBD を発症し，MSA 発症の経過を観察し得た症例を経験した．RWA や REM 期の行動異常によりシヌクレイノパチーを潜在的にあるいは発症前に捉えることが可能であると考える．

連絡先 0985-47-5555